

新潟大学 遺伝子倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	子宮内膜症及び子宮内膜症関連卵巣癌の病態解明を目的とした遺伝子解析研究
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	<p>2006年7月～2020年3月までの間に当院外来を受診され、 申請番号： G2006—0239「卵巣癌病態解明を目的とした遺伝子発現解析」（研究責任者：田中憲一） G2015—0701「子宮内膜症関連卵巣癌の病態解明を目的とした遺伝子解析研究」（研究責任者：榎本隆之） G2017—0010「子宮内膜を起源とする子宮内膜関連疾患の病態解明を目的とした子宮内膜遺伝子解析研究」（研究責任者：榎本隆之） G2018—0006「婦人科悪性腫瘍の発がん・進展メカニズムの解明を目的とした遺伝子発現解析」（研究責任者：榎本隆之） に同意をいただき、手術検体の一部組織、血液を採取された方が対象になります。</p>
③概要	<p>本研究の目的は、子宮内膜症及び内膜症関連卵巣癌を対象とした全ゲノムシーケンス、全エクソンシーケンス、ターゲットシーケンス、RNA シーケンスにより、網羅的に体細胞遺伝子変異を同定し、子宮内膜症および内膜症関連卵巣癌に存在する遺伝子変異の臨床的意義を明らかにすることによって、内膜症関連卵巣癌の発生や病態を解明し、新たな予防法・治療法の開発につなげていきたいと考えています。</p>
④申請番号	
⑤研究の目的・意義	<p>本研究は、正常子宮内膜、子宮内膜症、内膜症関連卵巣癌を対象とした全ゲノムシーケンス・全エクソンシーケンス・ターゲットシーケンスにより、網羅的に体細胞遺伝子変異を同定し、さらに RNA レベルでの発現解析を行うことで子宮内膜症および内膜症関連卵巣癌に存在する遺伝子変異の分子生物学的意義を明らかにすることにより、子宮内膜症の癌化のメカニズムを解明し、新たな検査法・治療法の開発に貢献することを目的とする。</p>
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から5年間
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	<p>採取された試料は、国立遺伝学研究所・佐々木研究所で全ゲノムシーケンス・全エクソンシーケンス・ターゲットシーケンスおよび RNA シーケンス解析を行います。匿名加工により特定の個人を識別することができないよう加工した状態で共同研究機関と試料のやりとりを行います。</p>
⑧利用または提供する	遺伝子体細胞変異情報および臨床情報（年齢、性別、病理組織診断、

情報の項目	等)
㊟利用する者の範囲	新潟大学および以下の共同研究機関等に遺伝子解析情報や臨床情報で利用いたします。 新潟大学医歯学総合研究科 産婦人科学教室 国立遺伝学研究所総合遺伝研究系人類遺伝研究部門 佐々木研究所腫瘍ゲノム研究部
㊟試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学医歯学総合病院 医療情報部 部長 赤澤宏平 新潟大学大学院総合研究科産科婦人科 教授 榎本隆之
㊟お問い合わせ先	本研究に対する同意の撤回や研究に関するご質問等ございましたら下記にご連絡をお願いします。 新潟大学大学院総合研究科産科婦人科 吉原 弘祐 Tel : 025-227-2320 E-mail : yoshikou@med.niigata-u.ac.jp